

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ポータルアートスペースHAPシンツるみ		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 5日		2025年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	62	(回答者数) 52
○従業者評価実施期間	2025年12月1日		2025年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 22
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 8日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	アート活動が一番の強みになっていると考えている。芸術学部・芸術大学等を出たスタッフでアート活動を行っているスタッフ、独自にアート活動を行っているスタッフ美術教師の経験があるスタッフがほとんどを占めており、アートを軸にした視点から療育活動を行えることがこの強みにつながっていると感じる。「自分を表現する」ことで「周囲や社会とつながる」ことを実践できる場になると考えている。卒業生が実際に、アート活動を行い、作品販売やコラボレーショングッズを販売するなどの活動につながっており、今後、さらにそうした、社会に出るまでのサポートの場としての面を充実させていきたい。	学校や美術教室ではなく、療育の場であるので、利用者一人一人が本当に作りたいものを制作する手伝いをする支援を意識的に行っている。学校や美術教室などでおこなわれるような、テーマや枠を固定した制作ではなく、本人が制作したいものを制作し、それに対して、必要なアドバイスを行うようにしている。その中で、コミュニケーション能力を引き出すことにつとめたり、制作環境を自分で整えたりできる力を養うようにつとめており、また同時に、技術的に難しいところをはじめはサポートしながら、次第に自分でできるようになるように本人の「得意」を伸ばすように支援している。	「自分を表現する力」を引き出せるように、個々人の事例を検討し、どのような声掛けやアドバイス、支援が必要かを探るようになっている。自然な声掛け、アドバイスをこころがけ、無理強いをすることのないように注意することで、子どもたちがのびのびと制作できると考えており、実際に楽しんで通ってもらえている様子なので、一層、自由な雰囲気でも活動できるよう、自然なさりげないサポートを行っていきたいと考えている。そのためにこどものことに関わる研修を定期的に実施している。
2	自由に自分のありのままのままでいられる場所として安心して過ごしてもらえることが強みになっていると考えている。さらに、ありのままの自分が、大人から尊重されたと感じられる環境を整えて自己肯定感や人を信じる力が育まれる場所にしていきたいと感じている。それは、社会に出た際のコミュニケーションに役立つものと考えている。	無理強いをすることなく、その場その場の気分の在り方も注視して、その日にあった過ごし方ができるように意識している。障害や家庭環境、状況に問題がある子としてあつかうのではなく「一人の人間」として接することが大事だと考えている。もちろん、「障害福祉」の観点は必要だが、それをすべてにしてしまうと「一人の人間」とであるという尊厳が失われてしまうので、まず第一に「一人の人間」に接しているという点を大事にし、本当に必要な場面での端的な叱り方以外で叱らないこと、大人の都合で行動の制限をしないこと、自由な過ごし方を強く意識している。	自由な過ごし方をするなかで、子ども同士のトラブルが発生した場合にスタッフが間をうまく取り持つことができるように、個別の事例を検討する場をもうけている。こどもにひとりひとりにあった方法でのコミュニケーションをスタッフがとれるように、研修を実施している。
3	こどもが達成感を得られそれをスタッフが共感し、親御さんにも伝達するようにしている。それは、共感的な支援につながっていると感じている。また、こども食堂の場などで相談を受けようとしており、親御さんの話を傾聴するようにしている。さらに、多く、相談を受けられるような機会をていきょうして支援していきたい。	制作活動などでこどもが達成感を感じられるよう、また感じた達成感をスタッフが共有できるように意識して、支援をしている。それは一人のアーティストが他のアーティストの作品を尊敬の念を持って鑑賞するような態度が大事だと感じている。またそこで得た感動を、連絡帳や送迎時などに親御さんに伝え、三者で共有する時間もとて大切だと考えている。	こどもが「自分を表現」できるように、さまざまな表現があることを、さまざまな展覧会へのお出かけ等で知ってもらっている。また自身の作品を展覧会へ出展し、親御さんにも自分のお子さんの作品を鑑賞してもらいその成果を感動を持って受け止めてもらえるように一層工夫していきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域に開かれた活動が十分に周知できていないことが弱みだと感じている。こども食堂の機会、プレーパークへの参加、祭りイベントの開催、展覧会の開催等、しっかりと周知することが必要だと感じた。	伝わりやすさを意識した広報が繰り返してきていないのではないかと感じた。どのような内容なのか、だれでも参加可能なのかなど、しっかりとアピールできていなかった面があると思う。	外部イベントへの参加、主催イベントの内容、オープンなイベントであることをしっかりと周知広報することが必要であると感じた。チラシの他、いつもやり取りをしている連絡ツールを駆使してまた、前回開催した際の画像を添付するなどでわかりやすく伝えていく必要があると考えた。さらに開催後のレポートもホームページアップするなどして、見てもらいやすくする工夫が重要ではないかと感じる。
2	相談の機会を周知できていないことが課題であると考えている。気軽に相談できる場を作って、それをわかりやすく、保護者に伝えていく必要があると感じた。	随時、相談は受け付けているが、十分に伝わっていないのは、そうしたことや相談の場があることについての広報が不十分であると感じる。	改めて、随時、相談を受け付けていること、こども食堂などで相談の機会を設けていることを日頃利用している連絡ツール等を通じてしっかりと周知していく必要があると感じた。
3	防災訓練など訓練についての内容を周知できていないと感じた。毎回、レポートを作成して配布しているが、新規の利用者の保護者に特に伝わっていない様子である。	新規の利用者が多くなってきており、前回と今回の訓練の境目にあたって、まだレポートを受け取っていない保護者の方がいると考える。また、従来からの利用者の保護者に対しても、レポート文書を添付しているだけだったので、そのほかのツール(ホームページ等)も用いる必要があったのではと考える。	新規の利用者にも、防災訓練等の訓練を行っていることを伝え、レポートを渡すようにする必要があると考えた。また、レポートも文書のみならず、連絡ツールやホームページ等、複数のツールを用いて周知することが必要だと感じた。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 ボーダレスアートスペースシヅルみ

公表日 令和7年2月12日

利用児童数 令和7年1月31日

回収数 52

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	45	4	0	4		
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	40	3	0	10		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	37	6	1	9	室内の様子がわからないのですが子どもは快適に過ごしているようです。	室内の様子がわかりやすいよう、見通し良く壁を撤去するなどしました。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	41	5	0	7	室内の様子がわからないのですが子どもは快適に過ごしているようです。	室内の様子がわかりやすいよう、見通し良く壁を撤去するなどしました。
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	45	3	1	4	特にアート活動に強い職員がいるのが特色だと思います。	アート系の児童指導員を中心としていることが特色なので、これからもその強みを活かして、アートを通じた療育を進めていきたいと思っています。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	46	3	0	4		
	7 こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	46	5	0	2		
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	43	5	1	4		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	46	5	1	1		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	38	11	0	4	室内だけでなく、外遊びもあり、いろいろな活動ができていると思います。	お子さんが、自分の意志で選択した活動ができるよう、屋内のみならず、屋外での活動も行っています。しっかりと、安全に配慮しながらも自由に活動できる環境を維持していきたいと考えています。
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	19	5	9	20	参加はできてませんが、子ども食堂は今後機会があれば利用したいです。	デイを利用されるお子さんご家族、そのご友人家族、近隣の住民の方などにご利用いただいております。児童発達支援管理責任者もおり、相談を受ける場としてぜひご利用ください。
保 護 者 へ	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	49	4	0	0		
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	32	10	6	4		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	24	4	6	19		
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	47	5	1	0	利用すると活動内容を教えてもらえるので、親では分からない新たな気付きがあるので嬉しいです。面談等はありませんが、困ったときには連絡・相談させてもらっています。	活動内容は都度お伝えするよう心がけております。これからもわかりやすく活動内容をお伝えしていきたいと考えています。相談も随時うけております。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	27	12	7	7	希望すれば、行われるのだと思う	ご希望に沿って、相談も受け付けております。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	49	1	1	2		

の 説 明 等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	19	6	11	17		
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	42	3	1	7		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	45	5	1	2		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	45	2	0	6	HAP展があることで他の利用者さんの作品も見れて良い刺激になってます。	展覧会は、アートを通じて社会とつながる大切な機会であると認識しております。表現することを通じて社会と関わる大事なステップを経験することで、自分の意思や思いを表出するひとつの方法と考えています。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	46	1	0	6		
非 常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	33	4	1	15	訓練が行われているかわからない	訓練を行ったレポートを配布物にて報告いたしますので、ぜひご覧ください。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	25	5	0	23	訓練が行われているかわからない	訓練を行ったレポートを配布物にて報告いたしますので、ぜひご覧ください。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	40	3	1	9		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	38	3	1	11	不注意によるケガ等が多く、その都度ご迷惑をおかけしています。されるのだらうと思う	ケガ等が発生しないよう、安全にも留意して見守り声掛けをおこないます。また、事故・ケガ等の場合は速やかに連絡をいたします。
満 足 度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	51	1	0	1		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	48	4	0	1	とても楽しみにしています HAPさんに行くのをいつも楽しみにしています。ありがとうございます。 作成したいものを自由にさせてもらい、様々な材料を使わせてもらえることを楽しみにしています。 本人も楽しみにしているようです	ここでしかできない活動ができる場所であることが重要だと考えて運営しております。これからもお子さんが「本当にやりたいこと」をサポートできるようとめていきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	49	3	1	0		

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ボーダレスアートスペースHAPシンつまみ				公表日	令和7年2月12日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	20	0	適宜、スペースとこどもの活動状況の関係を考慮して、改築している。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	21	1	基準以上の配置をしている。	個々にあわせてやりたい活動を支援していく方針なので、こどもひとりひとりの特性をみながらさらに適切な配置ができるようにしていきたい。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	16	5	活動につかう道具や画材などの場所をわかりやすく工夫している。また、車いすで利用できるトイレも設けている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	18	3	清潔を保つよう、整理と清掃を行っている。	建物の老朽化が進んでいるので、今後の運用について検討する。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	20	3	小部屋を設けて、こどもが必要な時に利用できるようにしている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	16	4	広くスタッフが参加してミーティングを行っている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	15	2	保護者の意向を把握して、業務改善の参考としている。自己評価用のアンケートだけでなく、サポートシートを用いて、希望を確認している		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	21	1	自己評価用のアンケート、面談を設けて、意向や改善提案などを把握している。	運営と現場スタッフとの情報共有をさらに密に行うようにする。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	12	4	第三者委員は設けているが評価はおこなっていない。	第三者による評価を検討する。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	20	2	内部研修の機会を月1回程度もうけ、また外部研修も案内して参加してもらえるようにしている。	研修の充実した外部サービスの利用も検討する。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	20	0	支援プログラムをホームページで公表する。	伝わりやすいように、広報を工夫する。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	21	0	アセスメントをもとに個別支援計画を作成している。	さらに、アセスメントによるニーズの把握を充実させる。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	19	0	多くのスタッフが関わって計画をチェックしている。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	20	1	スタッフと相談のうえで計画を作成して、計画に基づいて支援できるようにしている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	17	1		必要に応じてツールの見直しも行う。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	18	1	必要な項目を設定している。必要な項目が抜けないように、複数の目でチェックをしている。		

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	15	2	いろいろなスタッフの意見を取り入れてチームで立案している。	より意見がしやすい体制をさらに整えていきたい。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	20	2	ひとりひとりの様子を見ながら、様子にあった支援をするようにしている。	さらに、こどもの状況により適した支援を行えるよう努めたい
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	18	0	ひとりひとりにあわせて、制作などの個別活動、お出かけや外遊び、お祭りなどの集団活動を組み合わせて支援している。	ひきつづきこどもがのびのびと望む活動を楽しく、安全にできるよう、努めていきたい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	15	5		より綿密に打ち合わせができるように時間など工夫していく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	23	0	必ず、ミーティングを行って、ひとりひとりのその日の子どもの状況と支援の内容を振り返るようにしている。すぐに閲覧できるようにデータベース化もしている。	システムの導入を検討している
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	22	0	日々の記録を残し、共有とデータベース化をおこなっている。	システムの導入を検討している
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	19	1	親御さんからツールを使って、直近の様子、意向を把握し、スタッフに意見を聞いてモニタリングを行い、計画を見直している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	16	0	アート系の事業所であるため、創作活動を軸に、創作活動の環境を自分で作れるよう整理・整頓など自立支援、外遊びや地域に開かれたイベント、やってみたい余暇活動など組み合わせ支援している。	さらに、地域に開かれた催しを行って、地域との連携を深める。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	21	0	自身でやりたい創作や活動を自分で決めてもらうようにしてその活動を支援する形にしている。		
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	18	0	最も当該のこどもの様子を把握しているスタッフを参加させるようにしている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	17	1	療育センターや保健所、協力医療機関、学校等と必要に応じて連携をとっている。	より緊密な連携がとれるように努める。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	22	1	予定の共有や送迎時の注意事項、当日の学校での様子など必要な情報を共有している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	11	5		不十分な面がみられるので、緊密に連携するようにする。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	17	0	移行先の障害福祉事業所とは、移行にむけて、当事業所での様子、利用状況の経過など必要な情報を提供するようになっている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	14	3	療育センターと連携をとって必要に応じた情報共有を行っている。	研修やスーパーバイズ等は受けていないので、検討する。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	16	4	地域のプレイパークに参加したり、夏祭りなどのイベントにこどもを招待したりしている。	一層、地域の子どもの活動を増やすよう努める。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	9	5	こども部会の研修等に必要に応じて参加するようにしている。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	21	0	その日の子どもの様子を連絡帳で伝えたり、伝えてもらったり、送迎時にやりとりするなど、共通理解を持つようになっている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	13	4		不十分なので、体制の構築を図るよう努める。
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	15	1	契約の際に説明するようになっている。		

保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	19	0	サポートシートなどのツールを用い、また、連絡を取り合っ、子どもの意向、保護者の意向を確認するようにしている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	17	1	計画を読んでもらい、同意を得るようにしている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	16	2	必要に応じて、相談を受けるようにしている。	相談を受けていることが十分に伝わっていないので、さらに周知に努める。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	11	5	特に父母の会等は設けていないが、子ども食堂、遠足などの際に保護者の参加機会を設けて交流が行えるようにしている。	ニーズを把握しながら、交流機会の充実に努める。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	18	0	苦情解決の体制を整えており、すぐに対応するようにしている。また、必要に応じて行政機関への報告も行っている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	17	1	定期的に刊行物を配布し、また、行事予定の配布を行い、SNS等で活動内容を報告している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	16	2	個人情報の漏洩を防ぐべく、管理し、セキュリティシステムを導入し、スタッフにも個人情報とりあつかいについて周知している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	18	0	必要に応じて情報伝達の方法を変えるようにしている。	さらにより良い方法があるか検討する。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	16	0	オープンな展覧会や、子ども食堂など地域に開かれた催しを実施している。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	17	2	さまざまな緊急時に対するマニュアルを策定している。また訓練も実施している。	保護者への周知に課題があるので、しっかりとつたわるように努める。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	15	3	BCPを策定しており、訓練を実施している。	保護者への周知に課題があるので、しっかりとつたわるように努める。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	18	0	アセスメント時に確認している。また、定期的に連絡をとって、以前の状況からの変化にも注意するようにしている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	15	1	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書にもとづいて対応している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	16	1	産業医と連携をとって、安全のために必要なチェックを受け、結果に基づいた改善を実施している。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	18	0		周知が不十分な面があるため、伝わりやすい方法を検討して、一層の周知を図る。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	21	0	ヒヤリハット事案はすぐに報告書を作成して、スタッフ間で共有し、再発防止策を検討している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	20	0	虐待防止研修を実施している。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	19	0	虐待防止・身体拘束廃止委員会で、検討を行い決定し、保護者への説明と計画への記載を徹底している。		